

## 中学部 数学科 学習指導案

日 時：令和4年1月29日（土）

9：30～10：20

場 所：生活単元学習棟 集会室

対 象：Dグループ 4名

授業者：井上 滉太 平野 令子

**1 題材名** 『考えよう！データ研究員！』で、作成した二次元の表や棒グラフの情報を比較したり、問いに応じて考えたりして、データを考察しよう

### 2 題材設定の立場

#### (1) 題材について

<b>生徒観</b>	本グループは、1年生2名（A・B）、2年生1名（E）、3年生1名（I）の4名が在籍している。授業中は積極的に発言し、様々な学習に対して意欲的に取り組む生徒たちである。「データの活用」の領域の学習においては、新聞やテレビなど、グラフを目にする機会がたくさんあり、その中で、表や棒グラフについての読み方が自然と身につけている姿が見られる。
<b>系統観</b>	<p style="text-align: center;">本グループは中学部2段階のデータの活用を学習するグループである。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">身の回りのデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取る</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">身の回りにある数量や簡単な表をグラフに表したり、読み取ったりすること</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">データを日時や場所などの観点から分類及び整理し、表や棒グラフで表し、読み取る</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">データを二つの観点から分類及び整理し、折れ線グラフで表したり、読み取ったりすること</div> </div> <p>生活場面でグラフを目にする機会があり、絵グラフや棒グラフ、生徒によっては折れ線グラフの読み取りや数値の比較ができるようになってきている。しかし、読み取る項目が増えると「そのグラフは何を表しているか」と迷う姿が想定される。そこで、本題材では、記録から、二次元の表や棒グラフを作成し、考えたり、比較したりできるようになってほしいと考える。</p>
<b>指導観</b>	題材のはじめに、表や棒グラフの読み取り方や表し方などを基本的な内容を指導する。それができるようになったら、読み取る項目を増やし、二次元の表を作成したり、二次元の表から棒グラフに表したりする学習を行う。問いに対して迷うことがないように、教師と一緒に仕方を確かめながら、段階的に伝えていく。また、データを活用できるよう、表やグラフから、気づいたことやわかったことを考え、記述し、気づいたことやわかったことを基に、追加の資料と照らし合わせ、原因や理由を話し合う活動に取り組む。
<b>教材観</b>	本教材では、生徒に身の回りの記録やデータの情報を表にまとめ、自分で考えたり、伝えたりする活動に取り組んでほしい。何気なく見ている情報に疑問をもち、考えることは、物事に関心や疑問をもつことにつながる。これは、普段、情報を扱う本グループの生徒たちにとって、情報を活用する上で大事であると考え。扱う記録やデータに関しては、「年代別の主要な病気」、「交通事故について」、「学年別の好きな〇〇」、「地域別の果物の収穫量」など生活に身近なものを扱う。

#### (2) 生徒の実態と指導の方向

生徒の実態	
<b>B</b>	<p><b>【一般的な実態】</b> CA：13</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安定になると、集団からはなれようとするところがある。</li> </ul> <p><b>【指導方法に関わる実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が問題の間違いを伝えると、目元が潤み、不安気な顔で黙る。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕方がわかると自ら進んで、取り組む。</li> </ul> <p><b>【本題材に関する実態】</b></p> <p>&lt;知識及び技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一次元の表を作成する際、数を数えて、表に正しく記入することができる。</li> <li>・記録やデータを見て二次元の表を作成するとき、読み取った内容を異なる項目に数字を記入する。</li> <li>・棒グラフを見て、どちらの数がどれだけ多いか問われたとき、各項目の数を足して書く。</li> <li>・その他の項目を含む棒グラフから合計を求めるとき、その他以外の各項目の数を足して、答える。</li> <li>・表から棒グラフをかくとき、どこに棒を書けばよいか迷い、異なる項目に棒をかく。</li> </ul>

B	<p>&lt;思考力・判断力・表現力等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの棒グラフを見て、気がついたことを書くように伝えたと、手が止まる。</li> </ul>
	<p><b>【指導の方向】</b></p> <p>一次元の表や棒グラフの読み取りはおおむねできている。しかし、二次元の表では項目の示すところがわからなくなり、誤った数値を記入することがある。そこで、二次元の表について理解し、棒グラフで表し、表やグラフから大小や変化、差などに気づき、答えることができるようにしたい。表に異なる数字を書いた場合は、教師が仕方を提示して確かめる。また、二次元の表や棒グラフから考えるとき、どのような部分を見て、比較するとよいか、問いかけながら学習を行う。</p>
I	<p><b>【一般的な実態】</b> CA : 15</p> <p><b>【指導方法に関わる実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解き方がわかるようになると、次々に問題を解こうとする。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中、興味のない内容であったり、解き方がわからなくなったりすると目を閉じることがある。</li> <li>・授業中は積極的に挙手をし、発言をする。</li> </ul> <p><b>【本題材に関する実態】</b></p> <p>&lt;知識及び技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録を見て、二次元の表を作成するとき、表に正しく記入することができる。</li> <li>・二次元の表から、棒グラフを作成するとき、表題とは異なる棒グラフを作成する。</li> <li>・棒グラフから、どちらの数がどのくらい多いのか問われたとき、異なる数字を書く。</li> </ul> <p>&lt;思考力・判断力・表現力等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの棒グラフを見て、気がついたことを記述するように伝えたと、手が止まる。</li> </ul>
	<p><b>【指導の方向】</b></p> <p>実態とこれまでの学習を踏まえ、一次元の表や棒グラフを読み取ったり、表現したりとできると考える。しかし、実態より二次元の表になると、情報が増え、わからなくなる。そこで、二次元の表について理解し、棒グラフで表し、表やグラフから大小や変化、差などに気づき、答えることができるよう指導する。教師と二次元の表の見方を整理しながら確認し、二次元の表や棒グラフから、わかったことや気づいたことを考えるときには、どのような部分を見て、比較すればよいか、教師が問いかけながら学習を行う。</p>
E	<p><b>【一般的な実態】</b> CA : 14</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり言を言って、話しを聞いているときがある。</li> </ul> <p><b>【指導方法に関わる実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定規で、縦の線を引くとき、定規を置く位置がわからなくなるときがある。</li> <li>・どちらの方法がよいか問題を解きながら尋ねると、自分で考え、解きやすい方法を選ぶ。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中は積極的に発言をし、意欲的に取り組む。</li> </ul> <p><b>【本題材に関する実態】</b></p> <p>&lt;知識及び技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一次元の表を作成する際、数を数えて、表に正しく記入することができる。</li> <li>・記録やデータを見て、二次元の表を作成するとき、どのように書いてよいかわからないと言う。</li> <li>・一次元の表を見て、棒グラフをかくとき、異なるめもりの棒をかく。</li> </ul> <p>&lt;思考力・判断力・表現力等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの棒グラフを見て、気がついたことを記述するように伝えたと、手が止まる。</li> </ul>
	<p><b>【指導の方向】</b></p> <p>二次元の表になると、数値がどの項目を示すかわからなくなる。そこで、二次元の表について理解したり、棒グラフに表現したりできるようしたい。また、表やグラフから大小や変化、差などに気づき、その結果から、原因や理由を考えることができるよう指導していく。はじめは教師がことばをかけて、思考を促し、段階的に自分で考え、判断できるように学習を進める。</p>
A	<p><b>【一般的な実態】</b> CA : 13</p> <p><b>【指導方法に関わる実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめて見た問題は、「どういうこと」と言い、手が止まる。</li> </ul>

<b>A</b>	<学びに向かう力・人間性等> ・教師の問いかけに積極的に答える。 <b>【本題材に関する実態】</b> <知識及び技能> ・記録やデータを見て、二次元の表を作成するとき、どのようにかいてよいかわからないと言う。 ・棒グラフや折れ線グラフの数値を問われたとき、正しく答える。 ・一次元の表を見て、メモリの数、単位、項目を入れ、棒グラフを正しく作成する。 <思考力・判断力・表現力等> ・2つの棒グラフを見て、気がついたことを記述するように伝えたと、手が止まる。
	<b>【指導の方向】</b> 数値の読み取りができて、比較したり、考えたりして、表やグラフの大小や変化、差などに気づくことができている。そこで、表やグラフから気づいたことやわかったことは何かを考えることができるようにする。また、気づいたことやわかったことの中から、そのような結果になった原因や理由を考えることができるようにする。そのため、情報を比較する視点を伝えたり、原因や理由を考えたりすることができるように、グラフに関する追加資料を提示して学習を進める。

### 3 題材目標 ※「知識及び技能」を「知」、「思考力・判断力・表現力等」を「思」で示している

題材目標		学習指導要領の扱う内容
<b>B・I</b>	<b>知</b>	二次元の表から、決められた表題に合わせた内容を棒グラフに表すとき、二次元の表から表題に合う情報と棒グラフの書き方がわかり、二次元の表から値を読み取り、メモリの数、単位、項目を入れ、棒グラフを正しく作成する
	<b>思</b>	二次元の表や棒グラフから、理由について問われるとき、わかったこと、気づいたことの中から、なぜ、この結果になったかを考え、理由を記述する
<b>E・A</b>	<b>知</b>	二次元の表から、決められた表題に合わせた内容を棒グラフに表すとき、二次元の表から表題に合う情報と棒グラフの書き方がわかり、二次元の表から値を読み取り、メモリの数、単位、項目を入れ、棒グラフを正しく作成する
	<b>思</b>	二次元の表や棒グラフを見て、原因や理由について記述するとき、わかったこと、気づいたことの中から記述する視点を決め、原因または理由について記述する
<b>全学</b>	<b>学</b>	表や棒グラフのよさに気づいたり、生活の中で様々なことが表で表されていることを知ったりして、様々な情報を知ることに関心を持ち、生活の中で活用する

#### 4 題材計画 ※資料末尾にA3別紙で記載

#### 5 本時案 (全9時間の5時間目)

(1) 題目 『考えよう！データ研究員！』で、二次元の表や棒グラフから、気づいたことやわかったことを記述しよう

#### (2) 本時のめあてと評価基準

観点別の本時のめあて		評価基準
<b>B・I</b>	<b>知</b>	二次元の表から、決められた表題に合わせた内容を棒グラフに表すとき、二次元の表の線で囲んだ部分から棒グラフへの書き方がわかり、二次元の表の値を読み取り、メモリの数、単位、項目を入れ、棒グラフを正しく作成する
	<b>思</b>	二次元の表をもとに作成した棒グラフから、わかったこと、気づいたことを記述するとき、棒グラフを見て、比較する部分

年ごとの年齢別の交通事故数の表から、2020年の年齢別の交通事故数、2015年の歩行中年齢別の交通事故数、年ごとの歩行中10歳から19歳の交通事故数を棒グラフに表すとき、表の囲まれた部分の値を読み取り、メモリの数、単位、項目を入れ、棒グラフを正しくかく  
 ※教師の支援なし（上記の問題3問中3問正答）

二次元の表や棒グラフから、わかったこと、気づいたことを記述するとき、二次元の表や棒グラフを見て、比較する部分を判断し、考え、「年ごとの最大値や最小値の項目」、

B・I	思	分を判断し、わかったことや気づいたことを記述する	「年ごとの変化」、「年齢ごとの値の差」などのわかったこと、気づいたことを記述する
E・A	知	二次元の表から、決められた表題に合わせた内容を棒グラフに表すとき、二次元の表から表題に合う情報と棒グラフの書き方がわかり、表の値を読み取り、メモりの数、単位、項目を入れ、棒グラフを正しく作成する	年ごとの年齢別の交通事故数の表から、2020年の年齢別の交通事故数、2015年の歩行中年齢別の交通事故数、年ごとの歩行中10歳から19歳の交通事故数を棒グラフに表すとき、表の値を読み取り、メモりの数、単位、項目を入れ、棒グラフを正しくかく ※教師の支援なし（上記の問題3問中3問正答）
	思	二次元の表をもとに作成した棒グラフから、わかったこと、気づいたことを記述するとき、棒グラフを見て、比較する部分判断し、わかったことや気づいたことを記述する	二次元の表や棒グラフから、わかったこと、気づいたことを記述するとき、二次元の表や棒グラフを見て、比較する部分判断し、考え、「年ごとの最大値や最小値の項目」、「年ごとの変化」、「年齢ごとの値の差」などのわかったこと、気づいたことを記述する
全学		A3資料「4 題材計画」に記述した主体的な姿が見られるかどうかで題材終了後に評価をする	

### (3) 場面設定と準備物

<p style="text-align: center;"><b>場面設定</b></p>		<p style="text-align: center;"><b>意図と工夫点</b></p> <p>場面設定は2つ。①は、前に立っている教師の話が聞いて考えて取り組めるように、生徒全員が黒板側を注目できる配置にしている。②は、わかったこと、気づいたこと、棒グラフを発表するとき、友だち同士で考えを共有しやすいように配置している。</p>																																																							
<b>準備物</b>																																																									
	<p style="text-align: center;"><b>今日のデータ</b></p> <p style="text-align: center;">年ごとの歩行中の年齢別交通事故数の表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>年</th> <th>2010年</th> <th>2015年</th> <th>2020年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4~9</td><td></td><td>10000</td><td>6000</td><td>3000</td></tr> <tr><td>10~19</td><td></td><td>6000</td><td>4000</td><td>2000</td></tr> <tr><td>20~29</td><td></td><td>7000</td><td>6000</td><td>4000</td></tr> <tr><td>30~39</td><td></td><td>8000</td><td>6000</td><td>4000</td></tr> <tr><td>40~49</td><td></td><td>8000</td><td>7000</td><td>5000</td></tr> <tr><td>50~59</td><td></td><td>7000</td><td>6000</td><td>5000</td></tr> <tr><td>60~69</td><td></td><td>1000</td><td>8000</td><td>5000</td></tr> <tr><td>70~79</td><td></td><td>10000</td><td>8000</td><td>6000</td></tr> <tr><td>80~89</td><td></td><td>6000</td><td>6000</td><td>5000</td></tr> <tr><td>合計</td><td></td><td>72000</td><td>58000</td><td>39000</td></tr> </tbody> </table> <p><small>※このデータは、警察庁交通警察「令和2年の交通事故の発生状況」に記述されている数値を学童のために調整(母捨五入)したものである。</small></p>		年齢	年	2010年	2015年	2020年	4~9		10000	6000	3000	10~19		6000	4000	2000	20~29		7000	6000	4000	30~39		8000	6000	4000	40~49		8000	7000	5000	50~59		7000	6000	5000	60~69		1000	8000	5000	70~79		10000	8000	6000	80~89		6000	6000	5000	合計		72000	58000	39000
年齢	年	2010年	2015年	2020年																																																					
4~9		10000	6000	3000																																																					
10~19		6000	4000	2000																																																					
20~29		7000	6000	4000																																																					
30~39		8000	6000	4000																																																					
40~49		8000	7000	5000																																																					
50~59		7000	6000	5000																																																					
60~69		1000	8000	5000																																																					
70~79		10000	8000	6000																																																					
80~89		6000	6000	5000																																																					
合計		72000	58000	39000																																																					
<p><b>教具名</b> ワークシート</p> <p><b>意図と用途</b></p> <p>二次元の表から棒グラフに表すことができるように、今日のデータから棒グラフに表す活動で使用。</p>	<p><b>教具名</b> 今日のデータ</p> <p><b>意図と用途</b></p> <p>本時の授業で扱う表や記録。本時は、「年ごとの歩行中の年齢別交通事故数のグラフ」を扱う。</p>																																																								
	<p>スタンプを10個ゲットするとノーベル物理学賞もらえるよ!!</p>																																																								
<p><b>教具名</b> 研究員シート</p> <p><b>意図と用途</b></p> <p>表やグラフから比べたり、考えたりして、分析したことを書けるように、データからわかったこと、気づいたことを記入する。</p>	<p><b>教具名</b> 研究員カード</p> <p><b>意図と用途</b></p> <p>達成感を味わうことができるように、わかったこと、気づいたことを発表することができたら、カードにスタンプを押して使用する。</p>	<p><b>教具名</b> 棒グラフ秘伝の書</p> <p><b>意図と用途</b></p> <p>棒グラフのかき方が確認できるように、授業のはじめに、棒グラフを作成する中で確認するために使用する。</p>																																																							

### (4) 展開 ※資料末尾にA3別紙で記載

4 題材計画

			一次			二次				三次		
時数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	
B・I	知技	場面	一次元の表を見て棒グラフに表すとき	2つの一次元の表を、二次元の表に表すとき	記録から、表題を見て、二次元の表に表すとき	二次元の表から、決められた表題に合わせた内容を棒グラフに表すとき						
		できた姿	教師のことばかけを聞いて、グラフにメモリの数、単位、項目、表題を入れ、棒グラフを正しく作成する	教師のことばかけを聞いて、二次元の表の空欄に数字を記入する	教師のことばかけを聞いて、決められた表題の二次元の表を作成する	二次元の表の線で囲んだ部分から値を読み取り、メモリの数、単位、項目を入れ、棒グラフを正しく作成する	二次元の表から値を読み取り、メモリの数、単位、項目を入れ、棒グラフを正しく作成する					
	思判表	具体的状況					二次元の表や棒グラフから、わかったことや気づいたことを記述するとき				二次元の表や棒グラフから、理由について、問われるとき	
		表画像					二次元の表や棒グラフを見て、比較する部分を判断し、わかったこと、気づいたことの意味を記述する				わかったこと、気づいたことの中から、なぜ、この結果になったかを考え、理由を記述する	
E	知技	場面	一次元の表を見て棒グラフに表すとき	2つの一次元の表を、二次元の表に表すとき	記録から、表題を見て、二次元の表に表すとき	二次元の表から、決められた表題に合わせた内容を棒グラフに表すとき						
		できた姿	グラフにメモリの数、単位、項目、表題を入れ、棒グラフを正しく作成する	二次元の表の空欄に数字を記入する	決められた表題の二次元の表を作成する	二次元の表から値を読み取り、メモリの数、単位、項目を入れ、棒グラフを正しく作成する						
	思判表	具体的状況					二次元の表や棒グラフから、わかったことや気づいたことの意味を記述するとき		二次元の表や棒グラフから、理由について問われるとき		二次元の表や棒グラフを見て、原因や理由について記述するとき	
		表画像					二次元の表や棒グラフを見て、比較する部分を判断し、わかったこと、気づいたことの意味を記述する				わかったこと、気づいたことの中から、なぜ、この結果になったかを考え、理由を記述する	
A	知技	場面	一次元の表を見て棒グラフに表すとき	2つの一次元の表を、二次元の表に表すとき	記録から、表題を見て、二次元の表に表すとき	二次元の表から、決められた表題に合わせた内容を棒グラフに表すとき						
		できた姿	グラフにメモリの数、単位、項目、表題を入れ、棒グラフを正しく作成する	二次元の表の空欄に数字を記入する	決められた表題の二次元の表を作成する	二次元の表から値を読み取り、メモリの数、単位、項目を入れ、棒グラフを正しく作成する						
	思判表	具体的状況					二次元の表や棒グラフから、わかったことや気づいたことの意味を記述するとき		二次元の表や棒グラフから、理由について問われるとき		二次元の表や棒グラフを見て、原因や理由について記述するとき	
		表画像					二次元の表や棒グラフを見て、比較する部分を判断し、わかったこと、気づいたことの意味を記述する				わかったこと、気づいたことの中から、なぜ、この結果になったかを考え、理由を記述する	
主体的な姿		粘り強さ	<input type="checkbox"/> 教師からの問いに、考えたり、答えたりしようとする <input type="checkbox"/> 自らプリントを解く <input type="checkbox"/> 不正解のときは、自分でもう一度、問題を解く <input type="checkbox"/> グラフや表を見て、自分の思いや考えを伝えようとする <input type="checkbox"/> 自ら、挙手をして発言する <input type="checkbox"/> わからないときは、教師に質問する									
		学習調整	<input type="checkbox"/> 教具を使うか使わないか自分で判断する <input type="checkbox"/> 不正解の理由が分からないとき、なぜ、間違いなのかを尋ねる									
配慮的に扱う内容		○グラフの名称や種類    ○表の名称    ○「その他」の項目について    ○表の利点について    ○グラフの利点について										

(4) 展開

学習活動	教師の意図と働きかけ			
	B	I	E	A
1. 前時で学習したことを振り返り、本時で学習することを確認する。	○前時の学習内容を振り返り、二次元の表から棒グラフの表し方とどの情報からどの棒グラフができるかを確認するために、前時で扱った二次元の表と棒グラフを示す。 ○本時の学習活動に見通しをもてるように、板書された黒板を指し示し、本時の活動を伝える。			
2. 二次元の表を見て、棒グラフを作成する。	○本時で扱うデータに関心をもてるように、交通事故についての話をした後、二次元の表のグラフを見せる。 ○表題を見て、二次元の表から抜き出す情報と棒グラフの書き方を確認するため、教具「棒グラフ秘伝の書」を見ながら、教師と一緒に棒グラフを作成する。 ○二次元の表から棒グラフに表すことができるように、年ごとの歩行中の年齢別交通事故数の表の囲んだ部分から、表題に合う棒グラフを作成するよう伝え、様子を見る。正しく作成することができた場合には、二次元の表から棒グラフへのかき方がわかったことを認める。 ・棒グラフに異なる数値の棒を書いた場合には、表の項目の数値と棒グラフの項目の棒が同じになることがわかるように、棒グラフの棒と表の数値が同じかどうかの確認の仕方を問う。 ・縦軸に記入する数値がわからない場合には、縦軸のめもりのとり方がわかるように、表の数値を確認し、一番多い数値を表せるようにする必要があることを伝え、一緒に記入する数値を考える。 ・縦軸の1めもり分の数を大きく記入する場合には、大きく目もりをとるとどのようなグラフになるかわかるように、別の用紙にグラフを示し、このグラフの棒の大きさは適切か問いかける。 ・棒グラフの縦軸の単位を間違えた場合には、縦軸がなにを表しているかの理解できるように、縦軸と横軸の示すものを表と照らして見るとどこを見るとよいかわかるようにする。	・表の中の数値が何を表しているかわからない場合には、表の見方がわかるように、教師が指さしをしながら、表頭と表側を確認し、「この項目は、○○○(表頭)の△△△(表側)の数」と数値が何を表すのか尋ねる。 ・棒グラフに異なる数値の棒を書いた場合には、表の項目の数値と棒グラフの項目の棒が同じになることがわかるように、棒グラフの棒と表の数値が同じかどうかの確認の仕方を問う。 ・縦軸の1めもり分の数を大きく記入する場合には、大きく目もりをとるとどのようなグラフになるかわかるように、別の用紙にグラフを示し、このグラフの棒の大きさは適切か問いかける。	○二次元の表から棒グラフに表すことができるように、年ごとの歩行中の年齢別交通事故数の表から、表題に合う棒グラフを作成するよう伝え、様子を見る。正しく作成することができた場合には、二次元の表から表題に合うための情報と棒グラフのかき方がわかったことを認める。 ・棒グラフの横軸に違う年代の値を記入した場合には、表題が示す棒グラフが理解できるように、棒グラフの表題を確認し、かいた棒グラフの棒が示している数値は何かを尋ねる。 ・棒グラフの棒を正しく書くことができない場合には、棒グラフの棒のかき方がわかるように、定規をあてて、棒をかく方法はどうか尋ね、確認する。 ・棒グラフの項目の上に棒を書くことができない場合には、棒をどの位置にかく必要があるかわかるように、見本の棒グラフを示す。	・棒グラフの横軸に違う年代の値を記入した場合には、表題が示す棒グラフが理解できるように、棒グラフの表題を確認し、表のどの情報を読み取ればよいかを確認する。 ・表の中の数値が何を表しているかわからない場合には、表の見方がわかるように、教師が指さしをしながら、表頭と表側を確認し、「この項目は、○○○(表頭)の△△△(表側)の数」と数値が何を表すのかを尋ねる。 ・棒グラフの縦軸の単位を間違えた場合には、縦軸が何を表しているかの理解できるように、縦軸と横軸の示すものを表と照らして見るとどこを見るとよいかわかるようにする。
3. 二次元の表や棒グラフを見て、気づいたことやわかったことを研究員シートに記入する。	○表やグラフから比べたり、考えたりして分析することができるように、二次元の表や作成した棒グラフを見て、気づいたことやわかったことを研究員シートに記入するように伝え、様子を見る。比較する部分を自分で判断し、考えることができた場合にはみとめることばをかける。 ・研究員シートに記入せず、手が止まった場合には、気づいたことやわかったこと考え方がわかるように、二次元の表や棒グラフの見方を確認し、多い・少ないを比較し、わかったことを記入するよう伝える。 ・考えて、記入した内容と二次元の表や棒グラフなどのデータの事実と異なる場合には、データに基づく必要性がわかるように、記述した内容と比較した数値を教師と一緒に確認する。			
4. 本時の学習内容を振り返り、次時への意欲をもつ。	○気づいたことやわかったことを友だちと共有するために、互いに発表するよう伝える。 ○発表した内容が合っているかの確認と整理をするために、グラフを見ながら、発表で出てきた内容をまとめる。 ○データを読み取れた達成感を味わうことができるように、研究シートに記入し、発表することができたら、研究カードにスタンプを押す。 ○本時で学習したことを振り返るために、本時のめあて活動を確認し、頑張ったことや考えたことなどを認める。 ○次時への意欲をもてるように、次時で扱うデータの内容を伝え、本時を終える。			